

# ライフサポートひなた

症 例 概 要 入居者：90代 女性 要介護3

利用期間：令和4年6月～現在まで

既往歴：右大腿骨転子部骨折（2021.12） 慢性心不全(2021.12) 廃用症候群

心筋虚血 神経因性膀胱 便秘症 不整脈

経過：2021年12月自宅で転倒し右大腿骨骨折にて手術したが、慢性心不全後の廃用症候群で入院長引き一時期経管栄養であった。その後リハビリ継続し1日3食経口摂取となる。食べるのが大好きとご家族からも情報あり。

## 内 容

嚥下機能の低下によりペースト食対応。リハビリ目的にて当施設へ入所の運びとなる。入所当初より「食べることが好きだから、昔のように食べられるようになりたい」と食形態の向上を希望されていた。言語聴覚士によるリハビリが開始となる。

今年3月に軟飯キザミ食に変更となるが、嚥下に時間かかり、脱抑制や病識低下もあり安全な食べ方は定着せず。ご本人からも「もう食べられないのかしら」とネガティブな発言が聞かれていた。

昔食べていた物の話や、傾聴などでモチベーションの維持に努めたことで、「あきらめていたけど楽しみに頑張るわ」と、改めて毎日意欲的に咀嚼嚥下練習に取り組まれていた。

今年10月に「去年は食べられなかったけど、今年こそはクリスマスに大好きなモンブランを食べたい」と希望があり、おやつの中固形から常食への向上を試みるが、早食いやむせ込みによる危険のリスクが高い理由から叶わず。

その後も多職種でカンファレンスを重ね、首や肩回りのストレッチ、口腔体操、開口訓練を実施。運動範囲が広がり、咀嚼嚥下機能の向上がみられはじめた。また、呼吸訓練や発声訓練を実施、歩行や体幹訓練で肺活量向上を目指し、多少誤嚥しても咳で排出できるよう訓練を続けた。

高い意欲で取り組みを継続した結果、見守りのもとではあるが食べられる状態まで咀嚼嚥下機能が向上。「みんなにお礼を言いたい」と、感謝の手紙をいただくことができた。

クリスマスには念願だったモンブランを食べることができ、「とてもおいしい。3年ぶりに食べられて嬉しいわ」と素敵な笑顔を見る事も出来た。

ご本人の"食べたい"という気持ちと、職員の"願いを叶えたい"と言う気持ちが通じ実現した今回の事案をキラキラ介護賞に推薦いたします。